

2020年9月13日 司祭 越山 哲也

八戸聖ルカ教会

聖霊降臨後第15主日（特定19） 説教

「戻ってきなさい。あなたのことを待ってるから」

〔旧約聖書続編〕 詩書（集会の書） 27:30~28:1~7

〔使徒書〕 ロマの信徒への手紙 14:5~12

〔福音書〕 マタイによる福音書 18:21~35

主の平和が皆さんと共にありますように。

八戸聖ルカ教会の現在の聖堂は今年聖別42周年を迎えました。1978年9月11日に聖別されました。今日は聖別42周年を記念して礼拝の最後に、礼拝堂聖別式の聖歌301番をご一緒に歌いたと思います。そして、本日は池田甘露さんの洗礼志願式を説教の後に行います。洗礼志願の恵みを与えて下さったイエス様に感謝したいと思います。どうぞ洗礼式に向けて良き準備の時が与えられますようにお祈りいたします。洗礼志願式の最後に「主の祈り」の授与があります。主イエス様が教えてくださった主の祈りは私たちがおそらく唯一何も見ないで祈ることの出来る共通の祈りなのではないかと思えます。

主の祈りに次のような祈りがあります。

「私たちの罪をおゆるしてください。わたしたちも人をゆるします。」

今日の説教は、「赦し」についてお話ししたいと思います。本日の福音書の内容は大変やっかいです。

私は難解な箇所を読むときには特にですが、福音は私たちにとっての良き知らせなのだから私たちの努力を促すようないわゆるいいお話し、模範話として今日の箇所を読むと全く心が拒否してしまいますので、イエス様からの深い愛のメッセージが隠されていると信じて読み、そして説教の準備をしています。

福音書の内容をたどってみますと、弟子のペトロがイエス様に尋ねます。兄弟が自分に対して罪を犯したら何回赦せばいいのかと。

ユダヤ教の教えでは3回までだそうですからペトロはそれを意識して2.5倍の7回としたのかもしれません。しかし、イエスは7の70倍赦しなさい。つまり、無限に赦しなさいと応えられました。

そして一つのたとえ話をされます。ある王が家来たちに貸したお金の決済をしようとし、一万タラントの負債がある家来が王の前に立たされます。その家来の借金は日本円にして約3兆円です。

どう考えても返済は無理な天文学的な金額です。その金額の返済を王は全額免除しました。

ありえないことです。そして、その家来は自分が約 30 万円貸している仲間が返済の猶予を願い求めてもその願いを聞き入れませんでした。

そしてこの家来は王の怒りを買って牢に入れられて、王の思いを理解出来ることを強くその家来に願い求めて今日の福音書は終わります。

さて、この家来はまさに「私」なのです。そして王はもうお気づきになったと思いますが神様です。私たちは返済しきれないほどの罪を負いながらそれをすべて赦されているという事、しかし私たちは人をゆるすことが出来ないのです。主の祈りの中でよく疑問に思われる箇所が「私たちも人を赦します」という箇所、「人を赦さないと神の国へ入れないのですか?」「赦すことが神の国へ入る条件なのですか」という疑問を持たれると思います。神の国へ入る条件は人を赦すことではありません。

私たちは 1 回 2 回なら出来たとしても無限には人を赦すことが出来ないのです。

それでは今日の福音書は私たちにとって何が良き知らせなのでしょう。

本当の赦しとはお金では絶対に解決出来ません。互いに許しあうたった一つの理由は、お互いの関係を取り戻したいからではないでしょうか。

イエスは、私たちがいつどんな時でも「わたし」との関係が続けていきたいと願っておられます。

私たちの思いがどうであってもその願いはみじんも変わることはありません。「仲間」(神の家族)として生きて行くこと、そのためなら何度でも何度でも赦そう、そして神様に背中を向けて自分本位で過ごした日々によって重ねていった負債を私は免除しようとイエスは今日の福音書から私たちに伝えようと言われたのではないのでしょうか。ですから、神の国へ入る条件のようなものがもしあるとするならば、それは「人を赦す」ことではなく、たとえ人を赦すことが出来なくても神様の忍耐強く何度でも何度でも私の名前を呼び、戻っておいで戻っておいでと呼びかけ、「私」を招いてくださる事を忘れないことだと思います。